



大学院だより

大学院修了式

2019年3月15日、血脇記念ホールにて大学院修了式が、124期生卒業証書授与式と合同で行われました。凛々しく堂々とした大学院生の姿は、学部学生やそのご父兄にとっても印象深いものとなったと思います。修了式では39名の修了者の代表として老年歯科補綴学講座の釘宮嘉浩大学院生に櫻井薫大学院研究科長から修了証が授与されました。その後、新館11階教室に移動し、一人ひとりに修了証が授与され、澁谷國男同窓会長から、同窓会長賞が授与されました。



修了式後、充実感で一杯の大学院修了者。澁谷同窓会長および大学院関係者と共に

同窓会長賞

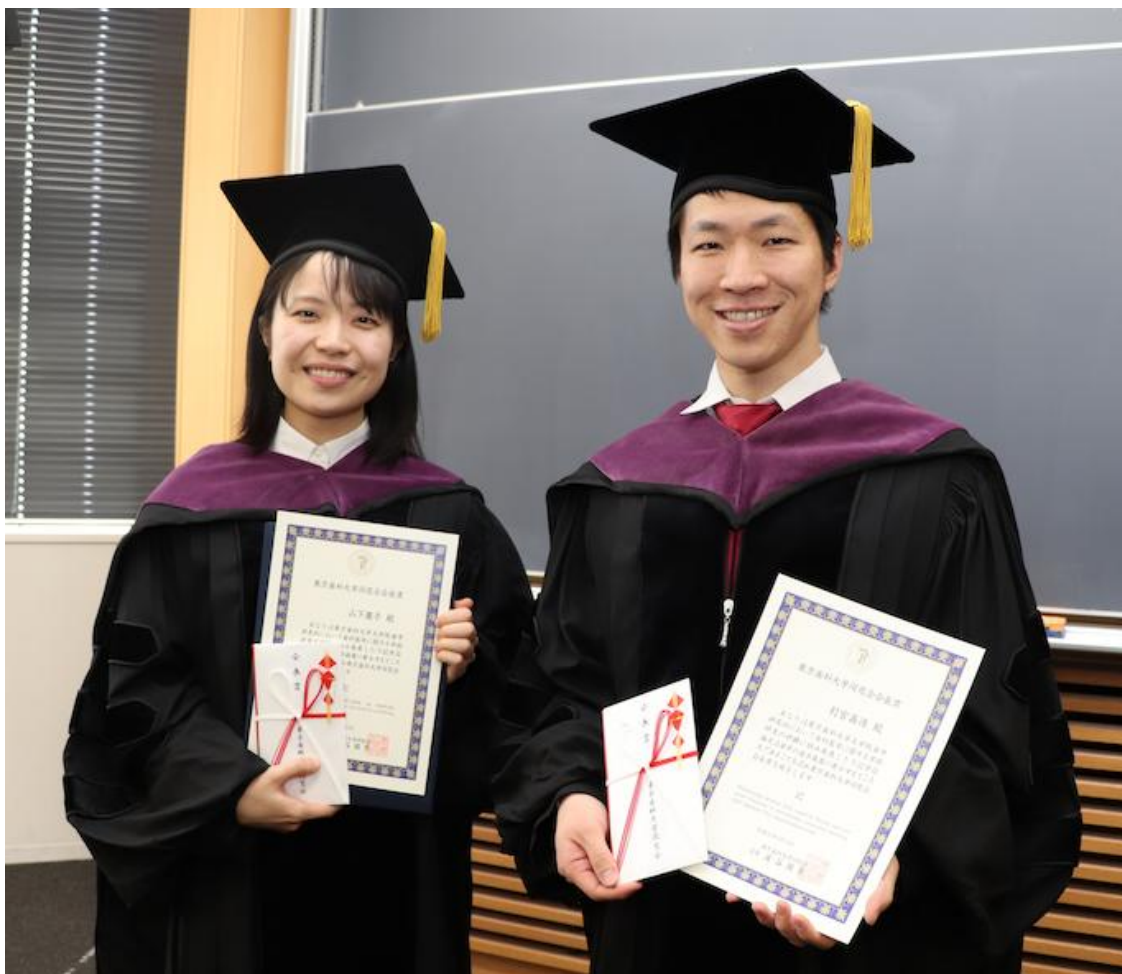
澁谷國男同窓会長から、同窓会長賞が老年歯科補綴学講座の釘宮嘉浩大学院生と歯周病学講座の山下慶子大学院生に授与されました。

- ・釘宮嘉浩大学院生の受賞テーマ

Relationship between mild cognitive decline and oral motor functions in metropolitan community-dwelling older Japanese.

- ・山下恵子大学院生の受賞テーマ

Treponema denticola TDE_0344, an AbrB-like transcriptional regulator, is involved in switching of the flagellar motor.



同窓会長賞の釘宮嘉浩大学院生と山下慶子大学院生

大学院修了にあたって

釘宮嘉浩（老年歯科補綴学講座3年）

2018年度末をもって東京歯科大学大学院歯学研究科を修了することができました。お世話になりました皆様方への感謝の念に堪えません。

必ず正解が用意されている学部生時代とは異なり、未知の正解を求める大学院生の研究は、やりがいがある反面、苦慮することも少なくありませんでした。研究だけでなく、臨床や教育にも携わる臨床系講座の中で研究に集中することができたのは、ひとえに支えてくださった先生方のお陰です。大学院生の生活を通して得られたリサーチマインドは、かけがえのない財産となりました。

私の研究テーマは、認知機能と運動性の口腔機能との関連についてです。口腔機能は、咀嚼や嚥下、構音、呼吸といった運動性の機能、唾液分泌機能からなる分泌性の機能、味覚や温度感覚、痛覚、触覚といった感覚性の機能などさまざまな機能からなっています。2018年度の診療報酬改定で口腔機能低下症が保険病名に加わったことからわかるように、近年、口腔機能と全身とのかわりが注目されるようになりました。私は、口腔機能の中で運動性の口腔機能に着目しました。認知機能と運動性の口腔機能との関連を検討した結果、認知機能が正常から軽度に低下している高齢者において、舌圧や舌の巧緻性といった舌の運動機能の低下が、認知機能の低下につながる可能性があることが示されました。本研究結果は、日本老年歯科医学会第29回学術大会にて口頭発表し、優秀課題口演賞を受賞させていただきました。また、研究結果をまとめた論文は、老年学の英文誌である Archives of Gerontology and Geriatrics にて報告させていただきました。

口腔機能の低下が全身の健康状態に与える影響については、未だに明確でない部分も多く、エビデンスの蓄積が求められています。大学院の修了は一つの区切りではありますが、現状で満足することなく、歯学の発展の一助となれるよう研究活動に邁進する所存です。

最後になりましたが、これまでご指導してくださった指導医の先生方、共に励ましあった同期や後輩の先生方に厚くお礼申し上げます。

大学院修了にあたって

山下慶子（歯周病学講座4年）

なぜ歯周炎の重症度は患者ごとに多様なのだろうか。研修医の頃、口腔内に多量のプラークが沈着していながら、歯槽骨の吸収が進んでいない患者のデンタルエックス線写真を見て、ふと疑問に思いました。そして大学院を修了した今、その漠然とした疑問に対し自分なりの答えを導き出せるようになり、4年間を経ての少しの成長を感じています。

大学院では、微生物学講座との共同研究として、主に石原教授、そして齋藤教授にご指導をいただきました。私の研究テーマは「*Treponema denticola* TDE_0344 の機能解析」でした。*T. denticola* は重度歯周炎病巣から高頻度に検出される菌群‘Red complex’を構成する、主要な歯周病原細菌の一種です。また口腔スピロヘータである本菌は、Red complex の中で唯一の運動性菌でもあります。TDE_0344 は、*T. denticola* のゲノムに存在する遺伝子であり、本菌が持つ病原因子の発現調節に関わる可能性がある領域です。我々は、*T. denticola* TDE_0344 欠損株を初めて作出し、野生株との比較を行うことで、TDE_0344 が本菌の運動性の調節に関わること明らかにしました。現在、目標としている国際誌への掲載を目指して、運動性の調節について詳細な解析をしているところです。

研究を行うにあたり、本当に多くの方々に支えていただきました。特に微生物学講座の先生方には、大変お世話になりました。実験手技を手取り足取り教えていただいただけでなく、準備・片づけの大切さや次に使う人への配慮など、口には出さずとも先生方の研究に対する姿勢からは、多くのことを学ばせていただきました。実験がうまくいかず、先が見えなくてつらい時も、解決策と一緒に考えて下さいました。挫折の多い日々の中でも、あきらめずに粘っていると新しい発見があります。一番印象的だったのは、どうしても培地内で遊泳しない *T. denticola* を遊泳させようと試行錯誤していた時、観察用のチャンバーをドライヤーで温めてみたところ、急に活発に遊泳するようになった瞬間でした。真夜中の出来事でしたが、後輩と石原教授と一緒に喜んでくださったことを記憶しています。改めて、大変恵まれた環境で研究をさせていただいたことに、心から感謝申し上げます。

学会では、2度の海外学会（アムステルダム、バンクーバー）を含む多くの発表を行わせていただきました。学会発表の準備は、研究内容をまとめ、より分かりやすく伝える、というトレーニングでもありました。海外発表では、各国の研究者と英語でディスカッションする機会を得ることができ、多くのことを学びました。これらの学会活動をするにあたり、学内のリサーチアシスタントや顎骨疾患プロジェクトの大学院研究助成に選出していただくことで、充実した研究活動を行うことができました。

今回思いがけず、修了時に同窓会長賞をいただくことができました。齋藤教授、石原教授には心より感謝を申し上げます。また、口腔科学研究センター、事務の皆様、学位論文審査に関わってくださった先生方、保存科のメンバー、歯周病学講座の同期・先輩・後輩、その他にもここには書ききれない多くの方々に大変お世話になりました。また、家族からの支えがあつてこそこの4年間だったとも感じております。今後は、引き続き研究に邁進するとともに、微力ながら後輩の力にもなれるよう、精進してまいります。

最後になりましたが、これまで御指導していただきました井出学長や櫻井大学院研究科長をはじめとする多くの先生方に、心から厚く御礼申し上げます。

大学院修了者懇親会

大学院修了者の主催で、指導の先生方との懇親会が西棟ラウンジで催されました。全てを終えた大学院修了者は、安堵感いっぱいの様子で、指導された教授の先生方と和やかなで有意義な時間を過ごしました。



2019 年度大学院歯学研究科入学式

2019 年 4 月 2 日午前 10 時より、41 名の新入大学院生を迎え、水道橋校舎本館 13 階第 2 講義室において、澁谷國男同窓会長、各講座の教授の先生方ご出席のもと、2019 年度大学院歯学研究科入学式が挙行されました。福田謙一学生部長の開式の辞に続き、齋藤淳教務部長による新入生の紹介が行われました。そして、新入生代表の山本悠太郎大学院生（解剖学講座）に井出吉信学長から入学許可証が授与されました。続いて井出学長から、研究者としての振る舞いに関する訓示、櫻井薫大学院研究科長から研究者としての心構えに関する訓示の後、新入生を代表して山本大学院生が宣誓し、入学式は終了しました。その後、櫻井大学院研究科長から一人ひとりに入学許可証の授与があり、履修に関するオリエンテーションが行われました。



井出吉信学長からの訓示を受ける新入大学院生

2019年度大学院新入生 学外総合セミナー開催

2019年5月16日（木）～18日（土）の2泊3日で、終始比較的穏やかで過ごしやすい天気の中、恒例の新入生学外セミナーが開催されました。会場は昨年と同様、富士山を望む「御殿場高原ホテル・時の栖 Hotel Brush upにて行われました。

第1日目は、各大学院生の自己紹介が行われた後、口腔科学研究センターの山口朗客員教授と埼玉県で歯科医院を開業しつつ精力的に研究活動をされている深井穂博先生の講義が行われました。山口先生は、私立大学研究ブランディング事業について、顎骨疾患プロジェクト研究の目的、その戦略、期待される研究成果などの詳しく説明されるとともに研究の楽しさについて熱心に語られました。深井先生は、歯科医院の診療・経営と研究とをどのように両立してきたかなど先生のユニークなライフスタイルについての興味深いお話と、考えることと実行することの重要性、そして研究を楽しむことで人生を豊かにすることなどについて語られました。大学院生一同、感銘し、熱心に聞き入っていました。

第2日目は、恒例の英文学術雑誌に関する発表会があり、山崎雅恵大学院生、藤井亜理沙大学院生、古澤誉彰大学院生、小島健太郎大学院生の4名が優秀賞に選抜されました。午後からは、「我々はなぜ研究をするのか」という課題についての活発なグループ討論が行われました。夜は、少々のアルコールとともに懇親会が行われ、親睦を深めました。

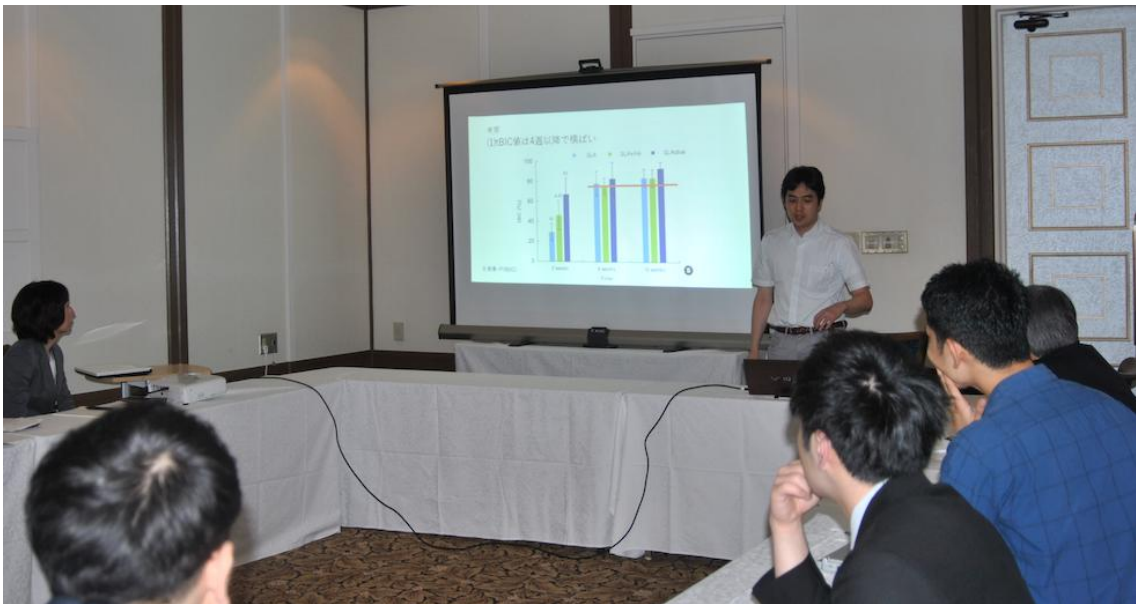
第3日目は、「我々はなぜ研究をするのか」について、グループごとの発表が行われ、斬新な発想と説得力のあるプレゼンを行った芳村竜秀大学院生のグループが優秀賞に選抜されました。セミナー最後の研究倫理に関する講義では、老年歯科補綴学講座の中島純子講師が、ビデオ上映とともに研究の取り組み方や研究をする上でのルールについてわかりやすく説明されました。また、中島先生自身の留学体験や女性研究者として子育てとの両立など生き様も熱く語られ、これから研究者としてのスタートする大学院生にとって、とてもためになる素晴らしい講義でした。新入大学院生にとって、大変充実した3日間でありました。



2019年度大学院新入生学外総合セミナー参加者一同



講義される深井穂博先生



英文学術雑誌に関する発表会での大学院生同士による熱心な討論



「我々はなぜ研究をするのか」という課題についてグループ発表と討論

大学院新入生学外総合セミナーに参加して

山崎 雅恵（オーラルメディスン・口腔外科学講座）

私は現在、市川総合病院にて臨床を行なっている。拠点が遠方であるため、今回の大学院総合セミナーを通じ、諸先生方・同期から多くの刺激を得たいと胸を膨らませ参加した。英語論文の発表は、論文の読解力はもちろん、統計学的知識の習得、論文の吟味力など多様な知識を身につけることが出来た。また、自らが選択した論文だけでなく、同期の発表の中でも興味・疑問点を抱き、今後の新たな課題を得ることが出来た。

グループ討議における「我々はなぜ研究をするのか」というテーマは、示唆に富む課題であり、未熟な私たちにとって最も難解な疑問であった。講座・所属の壁を超え、皆で考えて得た結果は、私にとって心打たれるものであり、これから研究と向き合うにあたって大きな原動力となった。漠然とした「研究」に対し、大きな不安はあるが、このセミナーを通じて得た「知的好奇心の探求」を大切に精進していきたい。

今回の大学院セミナーを通じ、尊敬する多くの先生方・共に邁進する仲間がいる環境に改めて感謝の気持ちでいっぱいになった。私も恵まれた環境のなかで、歯科医師として、一人の研究者として、誰かの原動力になれる人間でありたいと思った。今後の大学院生活においても、感謝の気持ちを忘れず、順境に溺れずに充実した日々を過ごしていきたいと思う。

藤井 亜理沙（オーラルメディスン・口腔外科学講座）

御殿場にて行われた大学院新入生学外セミナーに参加させていただきました。学外セミナーでは、講義・英文学術誌の発表・グループディスカッションを主に行いました。

講義では、私は特に老年歯科補綴学講座の中島先生の講義が非常に印象に残っています。同じ女性であり、研究者としての先生の歩みを拝聴する機会をいた

だけで、今後私自身がどのように歯科医師として歩んでいきたいのかを考えるきっかけとなりました。

また、英文学術誌の発表は事前に興味がある論文を選択しその論文内容の発表を行います。発表の準備段階では、論文を読むことに不慣れであり、さらには論文内の統計処理の解釈、スライドの構成の仕方、プレゼンテーションの方法に苦難しました。当日の発表では私自身の発表テーマ以外にも、スポーツ歯科や解剖、インプラントなど様々な分野の発表を聞くことができました。普段は、市川総合病院に在籍しているため他科の先生との接点がほとんどない私にとってこのような機会は、非常に勉強になり基礎系の先生の発表で一見私のテーマとは関係がなさそうであっても臨床と繋がっていることを強く実感しました。

グループディスカッションでは、「研究とは」というテーマについてグループの人たちと議論し発表を行いました。

学外セミナーに参加する前は他の大学院生との交流がほとんどなく不安が大きかったですが、2泊3日という短い間を他の大学院生と共有し、話す機会がなかった方々と話すことができ、親睦を深めることができました。今回の学外セミナーは私にとって大変有意義で、今後の大学院生活に活かしていこうと考えております。このような貴重な機会を与えていただき誠にありがとうございました。

古澤誉彰（歯内療法学講座）

今回の学外セミナーでは英文学術誌の口頭発表や先生方の講義、グループディスカッションそして懇親会など、他大学から入学した自分にとっては非常に濃く、有意義な3日間を過ごすことができました。

参加するにあたり、2週間ほど前から事前課題であった英語の論文を読み、翻訳し、スライドにまとめるという作業に入りました。論文を読みながら内容の理解はもちろん、研究結果から何がわかるのか、それがどう活かされていくのかなどを考え、論文の中で疑問に思った点を調べてあらかじめスライドに組み込むなど、誰が聞いても理解できるように心がけてスライドを仕上げました。スライドに記載する情報量と口頭で伝える情報量のバランスや、スライド作成

のルールなどに苦戦したのが印象に残っています。そういった作業の中で、物事を順序立てて論理的に説明する重要性や、見やすいスライドの構成、発表の仕方などを講座の先生方、先輩方から学びました。

私は緊張すると頭が真っ白になってしまうのでノートなどは用意せず、スライドをヒントにしながらか、会場に向かって話すように練習しました。いざ発表が始まると、緊張はしましたが上手くまとめることができました。

同期の発表はどの論文も非常に興味深く、分野を越えて引き込まれるものばかりでした。疑問に思った点や興味を持った点などに対して、積極的に質問をし、理解を深めることができました。

また、グループディスカッションでは“我々は何のために研究するのか”というテーマを与えられ、初めて顔を合わせるメンバーのなかで各々が意見を出し合いスライドを作りました。発表では各班の様々な考え方や、スライド作りのテクニック、聞き手を引き込む発表の仕方など、テーマの内容以上に学ぶことが多く、とても視野が広がりました。もともと私は、人前に出て発表をしたり、目立ったりするのは苦手でしたが、今回の学外セミナーを通して少し克服できたと思います。

先生方の講義においては研究の必要性や倫理観、熱意などを学び、自分のもつ研究に対するイメージが変わりました。特に研究における倫理観の講義では、ちょっとしたことが不正となる事実を知り、よく考えて行動しなければならないと強く感じました。

懇親会では沢山の先生方とお話しすることができましたし、同期との交流も深めることができました。私は他大学出身で水道橋病院研修でしたが、それでも大学院の同期には初めて顔を合わせる人ばかりでした。しかしこの三日間を通して、様々な講座に友人を作ることができました。

この学外セミナーに参加するまでは、苦手な発表や、友人の少ない環境など不安でいっぱいでしたが、とても充実した3日間を過ごすことができました。今回の経験はこの先の大学院生活において、非常に重要なスタートだったと考えます。同期とはこれからも講座の壁を越えて切磋琢磨し高めあっていくと共に、常に小さな目標を定めて充実した4年間を送れるよう努めていきたいです。

小島健太郎（小児歯科学講座）

静岡県の御殿場で行われた大学院新入生が対象の学外総合セミナーにこの度参加させていただきました。

セミナーは3日間にわたり、事前に選んだ英語論文の紹介、先生方の講義、「我々は何のために研究するのか」という内容のグループ討論という3つのスケジュールで構成され、40名の同期とともに取り組みました。

英語論文の紹介は自ら論文を選び、それを要約することで実際の論文がどのように構成されているかを理解することができました。また論文内容について発表することで、相手に伝わりやすいスライドづくりやプレゼンテーションの難しさを学びました。

先生方の講義ではご自身の経験から研究の経験素晴らしさや楽しさをお話ししていただき、そのなかで「良い研究」とはという話がありました。講義では「良い研究」とはニーズの高い分野を研究することでその研究がさらに違う分野で連携していき、次々と連鎖し深まっていくものとおっしゃられていました。今後、自分の中でも「良い研究」とは何かと常に自問自答し、「良い研究を行うこと」を信念にしていきたいと思いました。

また研究を行ううえで注意しなければならない研究倫理について、研究するうえで成果がなかなかでず不正を犯してしまった実例などを織り交ぜてお話ししていただき、そのようなちょっとした出来心からの行為によって大勢の方々に多大な迷惑をかけてしまうことを知りました。

グループ討論では「我々は何のために研究するのか」ということについて話し合い、短い時間の中でしたが所属講座も様々なグループのメンバーとお互いに様々な意見を出し合い吟味するのはとてもいい刺激になりました。最後は良いものが仕上がり発表も満足のものできたと思います。

これらのスケジュールを終え、これから大学院生として邁進するうえでの大切な心構えを教わった気がします。最後にお忙しい中我々のために、このようなセミナーを開いてくださりありがとうございました。

この3日間で学んだことを生かし、大学院の4年間を充実したものにしたいと思います。

芳村竜秀（口腔健康科学講座 摂食嚥下リハビリテーション研究室）

今回の大学院生学外セミナーは、大学院一年目の同期の方々と共に、これからの大学院生活に必要な物事を学ぶ為、二泊三日の日程で行われました。

同期の大学院生とは、一度入学式で顔合わせは済んでいたはずだったものの、改めて、四十人もの大学院生が一ヶ所に集まっているのを眺めた際には「同期だけでもこれだけたくさんの院生がいるなら、院生、ひいては研究者というのは、実は途方もない人数いるんだろうな」などと思ったのが、私のこのセミナーに対する第一印象でした。

このセミナーの構成はおおよそ三つの要素からなり、中でも、前もって自分たちで用意した英語論文を読みこみ、グループの皆や先生方の前で、スライドを用いて説明するという、英語論文の抄読は、お世辞にも英語が得意とは言えない私にとっては、大きな山場の一つで、始まる前には、何も起きてくれるな、と、緊張して挑んだ記憶があります。

しかし、実際に始まってみると、本来なら理解に大変な労力を要するであろう、自分の知らない、なじみのない分野や専門の論文たちが、同期の皆の丁寧な解説のおかげで、とても新鮮で、興味深いものに感じられ、非常に有意義な時間をすごせました。

セミナーを構成する要素には他に、第一線で研究に従事されている先生方の講義があり、先生方の実体験に基づいたお話の数々を通して、研究者というものが、今この世の中で、どのような立場にあり、何を求められているのか、どう生きているのか、今までの、ただぼんやりとしたイメージだった研究者像ではなく、等身大の研究者、その一端が垣間見える、素晴らしいものでした。

最後の要素である、最終日に行われたグループ発表は、新たに組まれたグループで、前日に与えられた課題について、セミナー参加者全員の前で発表するという、なかなか難しいものでありました、所属の全く違うグループメンバーと一緒に課題に取り組むにあたり、しっかりとコミュニケーションがとれるか、考えをちゃんとまとめ、スライドを仕上げられるのか、不安でしかたありませんでした。

そうして始まったグループでの作業でしたが、一緒のグループになった同期の皆がそれぞれ知恵を出し合い、議論を円滑に進めてくださったので、議論が充分つくされた、発表しやすい、いいスライドが仕上がったと思います。この

スライドづくりや、議論の進め方などは、この一回限りでなく、これからも使っていけるものだと感じています。

これらの講義や議論の他にも、普段あまりかかわらない、他の専門の同期と、様々な話ができ、懇親を深め、知見を広げられたことは、講義や議論に勝るとも劣らない、非常に貴重な経験だったと思います。

この三日間のセミナーによって、得ることのできた経験や知識を、この先の大学院での研究や生活で、十分生かせるよう、精進していきたいと思いました。

編集後記

今年も 39 名の大学院生が学位審査に合格し、将来の歯科界を背負うべく立派に巣立って行きました。授与された修了証を手にし、達成感に満ちあふれた笑顔でお互いの検討を讃えていました。指導者の教授の先生方も安堵したことと思います。また、124 期学生の卒業式に先だって行われた修了式では、学生部長の佐藤 亨教授をはじめ関係各位のきめ細やかなご配慮により、滞りなく式を終了することができました。大学院関係者一同、皆様方に感謝しております。

平成が終わり、令和の時代を迎えた最初の新入大学院生 41 名が夢と希望を持って、入学して参りました。美しい富士山を望む御殿場の地で行われた学外セミナーでは、今年も活発な討論が行われました。研究者として好スタートを切った彼らの将来を楽しみにしたいと思います。

最後に、櫻井薫先生、3 年間の大学院研究科長、お疲れ様でした。

ありがとうございました。(福田 記)